桜ケ丘だより

鹿児島大学病院広報誌

Kagoshima University Hospital PR News

特集

新教授の４人に質問しました！

新教授紹介

歯科診療部門トピックス

コロナ流行下の歯科のかかり方とは？

◎鹿児島大学病院基金へのご寄附のお願い

54
2020.9

特集

新教授紹介

A New Professor

Profile

1995年3月　愛媛大学医学部医学科卒業
2000年3月　愛媛大学大学院医学研究科修了　学位取得　博士（医学）
2002年4月　ジョンズ・ホプキンス大学医学部精神科博士研究員（米国）
2005年4月　鹿児島大学病院 助手
2008年4月　同　講師
2013年4月　鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 精神機能病学分野　准教授
2020年4月　同　教授
指定医　●精神保健指定医
専門医　●日本精神神経学会認定 精神科専門医・指導医
　　●災害派遣精神医療チーム先遣隊

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 健康科学専攻
社会・行動医学講座　精神機能病学分野

中村 雅之 教授

（神経科精神科 部門科長）

精神科リエゾンチームの充実と鹿児島発のグローカルな研究を推進

ー神経科精神科の診療面における方針を教えてください。

近年、統合失調症の患者さんが減少する一方、認知症をはじめとする高齢者の精神疾患や児童・思春期の発達障害など、これまでと異なるタイプの精神障害が増加しており、精神科と各診療科との連携が必要なシーンが増えています。大学病院内の各診療科はもちろん、地域の医療機関との連携も図りながら、精神科リエゾン（連携）チームの充実と人材育成に力を入れ、各診療科の医療を支えたいと思います。

また、臨床のみならず研究にも力を入れるのが大学としての務めと心得ます。とくに数多くの離島を有する鹿児島の地域性を生かした臨床研究を通じ、世界に先駆けた成果を導き出し、鹿児島から世界に発信するという「グローカル」な研究活動を目指しています。そのためには地域との緊密な信頼関係も不可欠ですので、積極的に現地へ出向き、研究活動を進めたいと思います。

ー地域医療機関との連携に関して、どのようなスタンスで臨まれていますか？

精神科リエゾンへのニーズが高まっている状況を反映し、総合病院に精神科医師を派遣するケースが増えています。また高齢化が進んでいることから、認知症疾患医療センターへの医師派遣も増加しています。今後も、公的医療機関および地域の中核的な医療機関とは医師の派遣、教育を含めた相互連携に力を入れていきたいと考えています。

ー精神科医としてのメッセージをお願いします。

精神科は、一般の方にとって敷居が高く感じられる診療科だと思いますが、もっと気楽に、困ったことがあったら何でも相談してもらえたらと思います。

（聞き手：鹿児島大学病院 広報担当副病院長 宇都 由美子教授）

教えて！素顔の中村先生！

Q 精神科医を目指したのはなぜ？

A カッコよく言えば、精神を支配している脳というブラックボックスを解明し、中を覗くことができる領域ではないかと思ったので。

Q 勉強を深めて何がわかりましたか？

A 勉強するほど、研究するほど、わからないことだらけだということが、わかりました。笑

Q 鹿児島の印象をひと言で。

A 人が温かく、患者さんも優しい人が多いと感じます。鹿児島には「古き良き日本」が生きています。

地域医療との有機的な連携の中で
次代へつながる活力ある医局運営を

ー伝統ある医局ですが今後の運営方針はどのようにお考えですか？

鹿児島大学の外科は、臨床・研究・教育において全国的に優秀な教室として名が通っていましたので、基本的にはこれまでの体制を大きく変えることなく、私が慣れていこうと思っています。ただ、医療はコミュニケーションが良好じゃないと進められないので、日頃から職員との会話を心がけています。また、医局を活性化するには若者の活力が不可欠です。手術や研究、海外留学と若手医師が積極的に活躍できる場をつくり、その姿を見た学生や研修医が憧れて入ってくる、というサイクルを作り出したいと考えています。

ー高齢化の進む鹿児島県。複雑な疾患背景を持つ高齢者への手術も増えていますね。

福岡から赴任してきて一番感じたのは、患者さんの年代が明らかに違うというところです。難しい手術もありますが、意外と成績が良い。これは、見極めがしっかりできるという臨床力の成果であり、もう一つは地域連携がうまくいっていることの表れだと思います。ある程度、ご飯を食べられるようになったら、地域の病院がすっと受け入れてくれる。その連携が思った以上にスムーズにできていて、県全体で高齢者の扱いに慣れているという印象を受けました。そういった面は私の方が学んでいます。

ー今後、地域の医療連携をさらに良くするため、地域の医療機関にどのようなことを希望されますか？

本当の意味で有機的な相談をしてほしいと思います。何か困ったことがあれば、紹介状を患者さんに託して当院を受診させる前に、電話やメールでなんでも相談してもらえたら。オンラインで画像を見せて相談できる関係ができれば理想的ですね。

（聞き手：鹿児島大学病院 広報担当副病院長 宇都 由美子教授）

特集
新教授紹介
A New Professor

Profile

1994年3月　九州大学医学部医学科卒業
2001年9月　ハーバード大学がん生物学プログラム　研究員
2003年9月　佐賀大学病院一般・消化器外科　助教
2017年4月　九州大学大学院医学研究院臨床・腫瘍外科　准教授
2020年4月　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
消化器・乳腺甲状腺外科　教授

専門医　●外科 専門医
●消化器外科 専門医
●肝胆膵外科 高度技能専門医
指導医　●外科 指導医
●消化器外科 指導医
認定医　●内視鏡外科 技術認定医

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 先進治療科学専攻
外科学講座　消化器・乳腺甲状腺外科学分野

大塚 隆生 教授

（消化器外科 部門科長、乳腺・甲状腺外科 部門科長）

教えて！素顔の大塚先生！

Q ご趣味は？
A 釣り、音楽鑑賞、読書。外科医を辞めようと思うほど煮詰まった時期が人生で3回ありましたが、『老子』に救われました。

Q 鹿大に赴任されたきっかけは？
A 鹿児島出身（加治木高校卒）なので、働くなら縁のあるところでと。故郷で働くやりがいを感じています。

Q 鹿児島への印象は変わりましたか？
A 世界自然遺産と世界文化遺産を有する素晴らしい所です。県外に出て鹿児島の良さを再認識しました。

特集
新教授紹介
A New Professor

人の和

Profile

1979年　熊本大学教育学部特別教科看護教員養成課程卒業
　　鹿児島大学医学部附属病院入職
1989年　鹿児島大学医学部附属病院医療情報部助手
2005年　鹿児島大学大学院医学研究科　博士（医学）
2006年　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
　　医療システム情報学准教授
2020年　鹿児島大学病院医療情報部教授

2006年　鹿児島大学発ベンチャー
　　かごしま医療ITセンター代表取締役社長
2016年　AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）
　　課題評価委員
2017年　厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業
　　（臨床研究等ICT基盤構築研究事業）に係る中間・
　　事後評価委員

鹿児島大学病院医療情報部
宇都 由美子 教授
（医療情報部 部長・特命副病院長）

蓄積された膨大な情報を活用し、経営の健全化への軌道を敷く

ーご自身がいま病院に期待されていることは？

当院は1984年、故井形昭弘先生（旧第3内科教授、病院長、学長）の旗振りのもとITを導入し、全国の国立大学病院に先駆けて発生源入力方式による病院情報システム（オーダリングシステム）を構築しました。システムの構築・整備とともに、蓄積されたデータを解析して医療現場や研究に還元するのも医療情報部の重要な役割です。さらに今後、経営の健全化という大きな課題への取り組みも我々の使命だと考えています。

ー宇都先生の考える「経営の健全化」とは？

まず収支のバランスが取れて利益が出せていること。次に、職員が日々の診療・ケアを通じて仕事の満足感を感じられる職場環境であること。それから、適度な新陳代謝があるということ。外に活躍の場を広げる、逆に地域の医療機関から研修や教育のため人を受け入れるということも新陳代謝を促すものと思います。そして何より、患者さんに選ばれる病院であるということ。その際、古くて性能の劣る検査・診断機器しかなければ、職員がいくら心を込めて医療サービスやケアを提供しても先進医療を提供することは困難です。患者さんが最高の医療を受けることのできる最新の医療機器・環境を整えるためにもしっかりした経済基盤が不可欠です。

ー大学病院の目指すべき方向について、どのようにお考えですか？

20年後、30年後を見据える「未来志向のベクトル」を育てていく必要があると感じています。少子高齢化がさらに進行した社会でどのような医療サービスやケアが求められるのか、地域医療の「最後の砦」として真に地域に貢献するため、国立大学病院という枠を外して発想することも必要かもしれません。

（聞き手：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
副研究科長 橋口 照人教授）

教えて！素顔の宇都先生！

Q 自慢できる業績を一つ教えてください。

A 鹿大発の病院情報システム「オーダリングシステム」の呼称が今や全国で一般名として通っていることは、ひそかな誇り。

Q 情報という仕事の魅力は？

A 正解が導き出されるコンピューターの世界は、医療という不確実な世界に身を置く者にとって新鮮な魅力があり、ハマりました。

Q 溌剌とした元気の源は？

A ヨガやジョギングで体を動かすこと。汗をかくとスッキリします！

先進医療を全てカバーする
高い技量と研究体制の充実へ

ーご就任と同時にコロナ禍に見舞われて、大変だったのでは。

緊急事態宣言が出されてすぐの着任でしたので、挨拶まわりができなかったことを非常に心苦しく感じました。耳鼻科はとくにface to faceで患者さんに接するので診療におけるプロテクション対策、さらに医局内の感染予防策などに腐心しました。

ー耳鼻咽喉科・頭頸部外科が目指す方向性について教えてください。

地域医療の「最後の砦」なので、基本的に「先進医療はすべて当院で」という方向を目指しています。難易度の高い手術にも積極的に取り組みたいので、それに見合う技量や研究体制を作っていきたいと思います。また現在、鹿児島市外で手術できる体制がないので、将来的には大隅半島や奄美大島、北薩地域等にも常勤を置けるようにしていきたいという思いがあります。今後も地域の医療機関と連携を図りながら、遠方の患者さんにとっても負担の少ない、質の高い診療を進めていきたいと考えています。

ー大学病院の経営の健全化についてのお考えをお伺いしたいと思います。

地域の医療機関からの紹介患者をもっと増やしていきたいというのが一番ですが、現在、遠方の患者さんを呼びにくい構図があります。他の公立病院との競合という地域特有の問題や、地理的な問題もあります。近隣の宿泊施設の設置に加え、港や駅からの直行便などアクセス面も整備していかないと、大学病院へのニーズを喚起することは難しいと思います。内部的には、医師自身が正確な診療情報の入力を行う手間を惜しまず、カルテ記入上の漏れやミスを防いでいく必要もあると思います。

（聞き手：鹿児島大学病院 広報担当副病院長 宇都 由美子教授）

特集
新教授紹介
A New Professor

Profile

1996年3月　鹿児島大学医学部医学科卒業
1996年7月　京都大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科 研修医
2007年4月　米国ウィスコンシン大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 客員研究員
2016年4月　京都大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教（病棟医長）
2018年4月　地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院 頭頸部・耳鼻いんこう科 部長（京都大学医学部 臨床教授 兼任）
2020年5月　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 先進治療科学専攻 感覚器病学講座耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野 教授（京都大学客員研究員 兼任）（京都大学医学部 臨床教授, 非常勤講師 兼任）

専門医　●日本耳鼻咽喉科学会 専門医
●日本気管食道科学会 専門医
●日本がん治療認定医機構 専門医
指導医　●日本耳鼻咽喉科学会 指導医
●日本がん治療認定医機構 指導医

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 先進治療科学専攻
感覚器病学講座　耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野

山下　勝 教授

（耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部門科長）

教えて！素顔の山下先生！

Q 久しぶりに母校に帰られて、鹿児島の印象を。

A 新幹線が通って風景が変わり、鹿児島弁も薄くなったと感じています。

Q 若手医師への期待を教えてください。

A 「少年よ、大志を抱け！」。夢とリサーチマインドをもって、留学などチャレンジしてほしいと思います。

Q 先生ご自身の夢を教えてください！

A まだ大きな声では言えませんが、鹿大の耳鼻科が世界に名乗れる日が来れば、というひそかな大志を抱いています。

歯科診療部門 Dental Division's Activity

口腔の健康から全身の健康をまもる

Topics

コロナ流行下の歯科のかかり方とは？

口腔外科「自己判断による診療控えは危険！気軽に相談」

コロナウイルス流行で、「歯科受診は不要不急」、「何か月も受診を我慢した」という声をいただきました。歯科部門は環境整備・消毒、スタッフの健康管理と行動自粛、患者さんの検温や問診など、徹底した感染対策を行っています。歯科治療でコロナウイルスに感染したという事例はありません。歯科治療自体、以前から感染対策を強化しているのです。また、口の中を清潔に保つことで、コロナウイルス肺炎の重症化防止や予防効果が報告されています。「口腔がん」のひと月の拡大の例をみてください。がんに限らず、治療が遅れることは体に負担がかかります。治療が困難になるほど進行することもあります。自己判断せず、病院に相談。コロナ流行下の病院との賢い付き合い方です。

口腔がんはひと月で目に見えて大きくなる（左：初診時、右：ひと月後）

連絡先	鹿児島大学病院　歯科電話センター　TEL：099-275-6595

鹿児島大学病院基金へのご寄附のお願い

鹿児島大学病院は、先進的医療の推進、優れた医療人の育成、地域医療への積極的な貢献など、国立大学病院としての使命を果たしていくため、「鹿児島大学病院基金」を創設し、寄附のご協力をお願いしております。

つきましては、本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本学への寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ先

鹿児島大学病院 総務課 企画・広報係
TEL：099-275-6692　　FAX：099-275-6846
Eメール：kufsyomu@kuas.kagoshima-u.ac.jp
基金ホームページ：https://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/fund/

表紙の写真　（上段左）消化器・乳腺甲状腺外科学 大塚隆生教授、（上段右）精神機能病学 中村雅之教授、（下段左）医療情報部 宇都由美子教授、（下段右）耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 山下勝教授

鹿児島大学病院広報誌　桜ヶ丘だより　54号
発行日／2020（令和2）年9月発行　発行／鹿児島大学病院広報委員会
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号　TEL 099-275-6710　URL：http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/